

ものづくり産業を支える仲間たち⑬

電機連合—サンケン電気 川越工場

今回は、埼玉県川越市にあるサンケン電気川越工場を訪問した。東武東上線ふじみ野駅から車で10分くらいのところに工場があり、本社まで車で30分くらいの新座市にある。

サンケン電気は、終戦から間もない1946年に、当時はまだ創世記にあった半導体の研究開発を進め、その技術を用いた電源製品の製造を開始したことに始まる。

同社は、今や世界シェア1を誇る製品を多く持ち、パワー半導体を中心とした、パワーエレクトロニクスとその周辺領域でソリューションを提供する専門メーカーである。パワー半導体からオプティカルデバイスまで包括する半導体製品、スイッチング電源を中心としたパワーモジュール（PM）製品、直流電源と無停電電源装置を中心としたパワーシステム（PS）製品の3つのセグメントに分類することができる。

半導体製品は、モータや照明など大電流の変換・制御用の用途に採用され、IT時代に

象徴されるデジタル家電・AV機器・OA機器、更に電子化が進む自動車用と、さまざまな分野で活用されている。

PM製品としては、ノートパソコン用のアダプタ、プリンタ用電源など、比較的小型の電源を生産している。

今回訪問したサンケン電気川

越工場には、オプティカルデバイス製品の技術開発部門が集結し、市場のスピードに対応したものづくりを目指している。また、PS製品の技術開発部門から生産までの一貫工場があり、その工程を見学することができた。

今回はものづくりの現場を見るということで、PS製品の生産工程を見学させていただいた。工場の主力製品は、不慮の停電などの場合でも安定した電源を供給する無停電電源装置（UPS）や、通信用電源、移動体通信の基地局用電源など、社会インフラで重要な大型電源装置を生産している。

工場の現場は、大量生産の一貫ライン生産をイメージしていたが、そうではなく、現場の生産改革活動により、顧客の注文に応じた製品を効率良く生産していた。また、明るい、清潔な感じの職場で、組立作業・配線作業・検査作業など、きびきび励んでいた。

表紙のイラストは、直流電源装置の配線作業をしているところである。生産改革活動に



大型UPS製品の検査工程（総合動作確認）

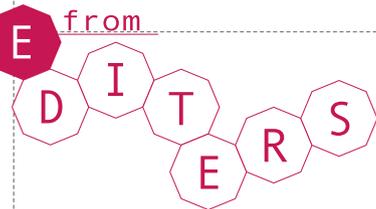


大型UPS製品の検査工程（通電確認）



ブレーカブロックの組立工程

より、セル生産化されており、高品質・高精度を要求される製品の複雑な配線作業は一つのミスも許されない、きめ細かな細心の技が求められる。働く一人ひとりの姿には、常に技術力と創造力の革新に努めながら確かな品質を追求する気迫がみなぎっていた。（美）



◆今号の特集では、「団塊の世代はどこへゆく」の第2弾として、ものづくり中小企業を地域一体型でサポートする大田区の産業振興協会の取り組み事例とセカンドライフを生き活きと過ごす3人の生き様などを取り上げた。退職後の長いセカンドライフをいかに充実して過ごすかは、全ての人にとって重大関心事だ。健康で、自分の好きな夢に打ち込んで、少しは他人のためになることができれば恩の字かもしれない。

◆超高齢社会では、地域全体に高齢者が多数を占めるので、地域一体型のサポート体制が重要だ。仕事中心の男性にとって、退職後に地域のコミュニケーションの輪に入っていくのは、一番不得手なところ。あんまり、仕事仲間とばかり夜遅くまで付き合っていないで、現役時代から同じマンションの住人たちと交流したり、地域のサークルに参加することも心がけておきたい。（美）

SUMMER
issue
[夏号]